

## 1.施設の概要

- ① 医療機関名  
三大寺クリニック（現三大寺リハビリクリニックを新築移転）
- ② 開設主体  
医療法人社団加音（いりょうほうじんしゃだんかのん）
- ③ 所在地  
大津市三大寺3 1 1 - 1, 2（予定）
- ④ 病床種別（一般病床／療養病床）・病床数  
一般病床 19床
- ⑤ 診療科目  
内科、外科、リハビリテーション科、皮膚科
- ⑥ 人員体制  
医師 3名（非常勤含む） 看護師（非常勤含む）5名  
看護補助員（非常勤含む） 5名 リハビリスタッフ 10名  
薬剤師（非常勤） 1名 事務員 6名
- ⑦ 病床機能（高度急性期・急性期・回復期・慢性期）  
回復期・慢性期

## 2.構想地域についての認識（現状・将来）（地域の課題やニーズをどうとらえているか）

大津地域における医療状況に関しては、今後、在宅医療に対する需要が増加していくものと認識しています。滋賀県地域医療構想の大津地域における病床状況では高度急性期・急性期は充足しているものの、回復期・慢性期は依然として不十分な状態であると思われまます。

それが故に今後、在宅医療に対する需要がますます増加し、多死社会が来ると予測される中で、在宅看取りがそれに応じて対応可能な状況となるかどうかは予測困難であると考えております。私どものクリニックがある地域でも周辺住人の高齢化が顕著であり、かつ老夫婦のみの世帯や高齢独居者が多く、また公共交通機関も利用しづらい地域となっているため不安を持っておられる方が多く居ると伝え聞いております。その状況に対応するためには現在の外来機能のみでは限界があると考えており、私どもが入院機能を備えることで看取りだけでなく、急性期治療から退院した際の一時的な療養、癌末期の方のホスピス的な治療、レスパイト入院による家族介護の負担軽減やADLが低下した高齢独居者の一時的な療養場所などとしての役割を担えるものと考えております。

2025年には高齢者が最多を迎え、その後には多死社会が予想されるなか、地域に根ざした有床診療所は、安心して在宅生活を送れる最も身近な医療機関として存在意義があるのではないかと考えております。

### 3.今後地域において主に担う役割

(どのような(どの地域・どんな状態の)患者を対象に、どのような医療を提供するか)

当院は在宅で療養している方を主に往診、訪問診療を行い、住み慣れた家、地域で出来る限り生活を続けて頂けるよう医療面より支えています。

在宅生活を送られている方は、可能な限り自宅で過ごし、最後は病院でと思っている方が多数いますが、経済的な理由で入院が困難な方もおられます。

有床診療所は病院と比べ入院費が抑えられ、財政面でも安心してもらえるのではないかと考えています。

入院受け入れの主な対象者は、終末期の方、難病、医療依存度が高く介護施設での受け入れが困難な方の入院、介護負担の軽減のためのレスパイト入院を考えています。

(地域の関係機関等との連携のあり方)

当院が三大寺にクリニックを開設しましたのが平成28年1月からです。

地域の行事にも積極的に参加させてもらい、地域の方々と共に歩んできた2年間です。

この度、有床診療所開設の検討を始めたのは、瀬田南地域自治連合会、三大寺自治連絡協議会様より住み慣れた地域で老後を送りたいという要望を頂いた事もその一つとなります。

これからも地域に根ざした医療を提供出来るよう精進していきたいと考えています。

また、現在訪問診療・訪問看護・訪問リハビリを行っておりますが、更なる充実を図って行きたいと考えております。入院により在宅生活が困難とならないようリハビリを継続して行かない、在宅復帰に向け病、診、介護連携を図って行きたいと思っております。

その為に、主治医、地域包括支援センター、ケアマネージャー等との連携を強化したいと考えております。

(届出予定の施設基準)

有床診療所入院基本料3・有床診療所一般病床初期加算・重症皮膚潰瘍管理加算

医師配置加算1・夜間看護配置加算1・看護補助配置加算1

夜間緊急体制確保加算・がん性疼痛緩和指導管理料・有床診療所緩和ケア診療加算

後発品使用体制加算3・がん患者指導管理料2・在宅支援診療所3・

在宅医学総合管理料・運動器リハビリテーション3・脳血管リハビリテーション3

退院時リハビリテーション指導料 など

### 4.今後のスケジュール(予定)

平成30年4月から工事着工

平成31年1月開院予定